

2014 年度 UCRC 研究員プロジェクト活動実績報告書

ふりがな 氏名	ながお あすか 長尾 明日香
(プロジェクト・テーマ名) 「近代植民地都市における政治と都市文化—特に代議制、民主主義との関連で—」	
(研究活動実績) プロジェクトの概要 本プロジェクトの目的は、多様な歴史的経験を持つ近代植民地の参政権、自治権の発展史を、植民地各都市における政治的諸関係、政治活動、もしくは「代議制、民主主義に関する表象、語り」に注目することで、その共通点と差異を明らかにすることである。諸地域間の歴史的な文脈や研究史の違いは大きいですが、下記の研究会を開催し、多様な近代植民地、近代多民族帝国をご研究の先生方にご報告、ご議論いただくことで、同テーマでの比較研究の基礎となる様々な知見が得られ、またこれまで交流の薄かった研究分野間の、今後の共同研究につながる情報交換、人脈形成が行われた。 研究会 (参加者 10 名) 日時：2015 年 1 月 10 日 (土) 13:00-19:00 場所：AP 大阪駅前梅田 1 丁目 報告者 1 長尾明日香 (UCRC 研究員) 「研究会の開催にあたって」 「19 世紀インド西部における植民地統治体制と都市自治体」 報告者 2 吉田信 (福岡女子大学 准教授) 「オランダ領東インドの住民区分と統治」 報告者 3 堀内隆行 (金沢大学 准教授) 「19-20 世紀のケープとリベラリズム」 報告者 4 米岡大輔 (桃山学院大学 兼任講師、UCRC 研究員) 「帝国を跨ぐ人々-近代ボスニアにおけるイスラーム教徒の『帰属』をめぐる諸問題 (1878-1918)」 成果 プロジェクト・テーマに関する多地域間の比較研究の基礎となる、以下のような知見が得られた。 (i) 近代植民地間に大きな経済的、社会的、民族構成的、歴史的差異があり、各地域の政治的言説の多くがローカルな状況に規定されたにも関わらず、近代植民地に特徴的な多民族的状況への対応や宗主国との関係、さらには宗主国、国際政治における変化の反映等、数多くの共通のテーマ、背景が存在すること、(ii) 19 世紀英領東インド西部の都市自治体制度の事例のように、今日的定義で「民主主義」的でない制度であっても参政権拡大へのダイナミズムを生み出しており、植民地的政治制度は参政権の実態だけでなく、統治一般や植民地統治に関する住民の規範的・実態的認識、植民地政府のプロパガンダを含め、より広範な視野からの分析が必要なこと、(iii) 植民地の住民区分や国籍に関する言説は、参政権と直接関係のない、植民地統治に関わる多様な議論に規定されること、(iv) 参政権に関する植民地コミュニティ間の政治的対立が、本国政府によるプロパガンダ的働きかけにつながるケースがあること、(v) ボスニア・ヘルツェゴヴィナのような近代植民地以外の地域でも近代植民地と共通の政治社会的状況がある場合があり、有効な比較の可能性が あること。	